

カラー舗装でくっきり安全

泉地区



あんしん 歩行エリア

整備事業

after



before



事故は身近で 起きているんです

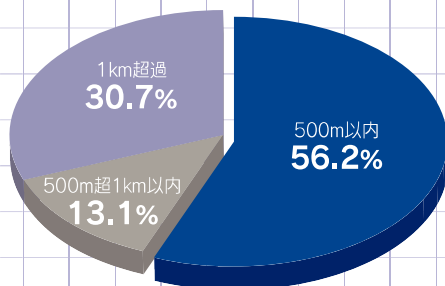
最近、交差点や通学路付近などで着色された道路を見かけることはありませんか？
これは「カラー舗装」といわれるもので、路面に色を塗ることで視認性を高めドライバーに注意を促したり、自動車と歩行者の交通区分を明確にすることで、歩行者の安全性を高めます。

今回の特集では、平成19年9月から泉地区で実施された「泉地区あんしん歩行エリア整備事業」の取り組みを、通学路にカラー舗装がされた泉小学校の児童の皆さんの感想とともにお知らせします。

起きているんです

国土交通省によると、日本では、交通事故死者数に占める歩行者と自転車利用者の割合が4割を超えており、欧米と比べて高い割合になっています。また歩行中の交通事故死者の約6割が、自宅から500メートル以内の範囲で被害に遭っています（グラフ①）

① 県内では、昨年の交通事故による死者数は、昭和31年以降で最少となりましたが、歩行者被害は44人で、前年より1人増加しています。
このような状況の中、平成15年に中央交通安全対策会議



▲グラフ① 歩行中の自宅からの距離別死者数（平成14年中）：国土交通省資料

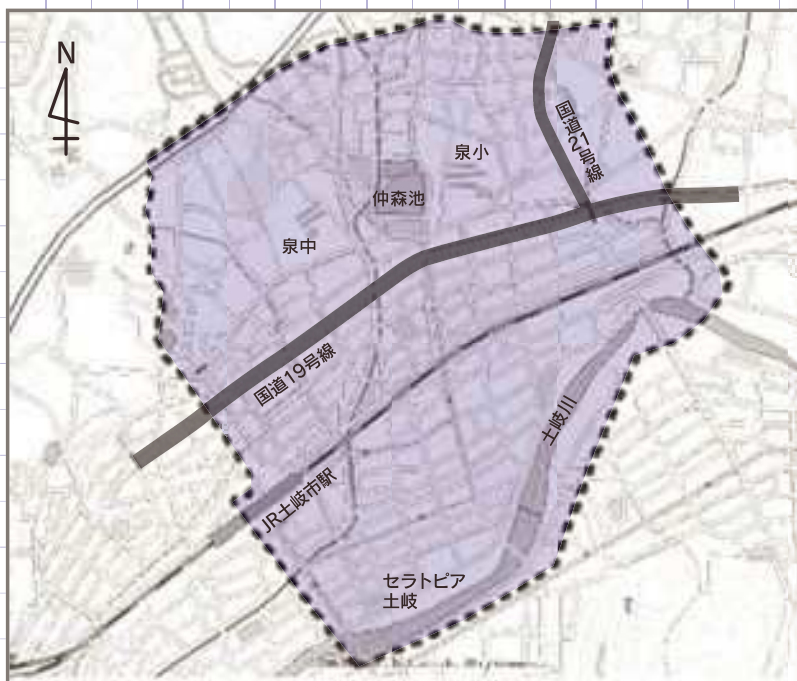
会長（内閣総理大臣）より『交通事故死者数をさらに半減させる』という、新たな長期的目標が提示されました。その取り組みの1つが「あんしん歩行エリア」形成事業です。



あんしん歩行エリア

整備地域と実施内容

交通事故多発地区に指定された、土岐市駅北口およびセラトピア土岐、泉小学校周辺の区域内路線約2kmについて、歩道整備、カラー舗装などの対策を実施しました。



通過車両の速度を抑えるため、センターラインを撤去しました。また、交差点部分を着色し、ドライバーに注意を促します。



歩行者が歩きやすくなるよう、路肩の幅を広げ、着色しました。

あんしん歩行エリアとは？

あんしん歩行エリア形成事業は、誰もが安全で、安心して暮らせるまちづくりを実現するための事業です。具体的には、通学路や生活道路など、多くの歩行者が利用する道路なのに歩道がない所や、歩道に段差があったり電柱が邪魔をして歩きづらい、生活道路を車がスピードを出して走り抜けるなど、危険のある所や自動車の交通事故が多い所をエリアとして指定し、交通安全対策を面的に整備するもので、国土交通省・警察庁による主な施策の一つです。現在、全国で796箇所、岐阜県内では20箇所がエリアに指定されています。（道路局HP）

土岐市の取り組み

「あんしん歩行エリア土岐市泉地区」は、歩行者および自転車利用者の安全な通行を確保するため、緊急に対策が必要な住居系または商業系地区として、平成15年7月に国

土交通省と警察庁から指定を受けました。

市では、地域の代表者や学校関係者、関係機関の方などによる「泉地区あんしん歩行エリア整備促進協議会」を平成19年9月に設立しました。

目標 歩行者・自転車事故死傷者の3割減

協議会では、委員の皆さんが、対象となったエリアを実際に確認し、危険箇所や問題箇所を拾い上げるなど、地域の皆さんの意見を取り入れながら整備方針を決定し、事業を実施しました。

あんしん歩行エリア内の整備に当たっては、新たな道路を作るのではなく、原則としてもとの道路空間を有効活用し、歩行者や自転車など、交通弱者の安全な移動を確保することを目的としました。

また、この整備によって、エリア内の死傷事故を約2割低下させるとともに、そのうち、歩行者または自転車利用者の死傷事故を約3割低下させることを目標としました。



検証1

「安心して利用できる 歩行空間は確保されたのか」

泉小学校の児童が毎日利用するエリア内の通学路。歩く部分が広くなって、路面に色が塗られました。きれいになった通学路は、どんな効果があったのでしょうか？

小学校周辺の道路4カ所について、1～6年生の児童192人を対象にアンケートを実施しました。

カラー舗装



泉小学校6年
高橋 泰智さん

「なぜ、赤い歩道で本当に車が来ないのかなあ。」僕は少し不安でした。

僕は、最初にカラー舗装を見てびっくりしました。

本当に車がカラー舗装を越えないのです。なぜかと考えると、カラー舗装がある

ことで、車の人は、歩道があることに注意をして運転

しているからだと思います。僕たち歩く人も車道に出ない

ように心掛けています。僕は、カラー舗装が無かつ

たときと比べると安心感を持てました。

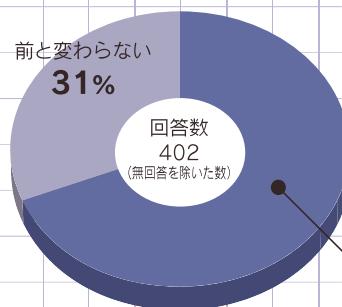
今僕は、分団長をしています。僕は、みんなを守

るよう、登下校の時、カラ

ー舗装のある道をしっかりと通って、安全にみんなを

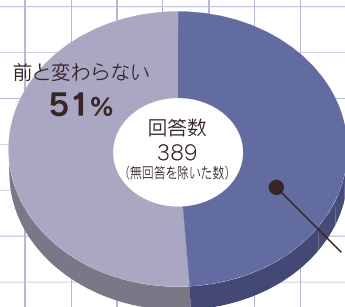
連れていきたいです。

歩きやすさについて



歩きやすくなった
69%

車の怖さについて



怖くなくなった
49%

泉小学校児童 アンケートの結果 (平成20年12月実施)

カラー舗装について



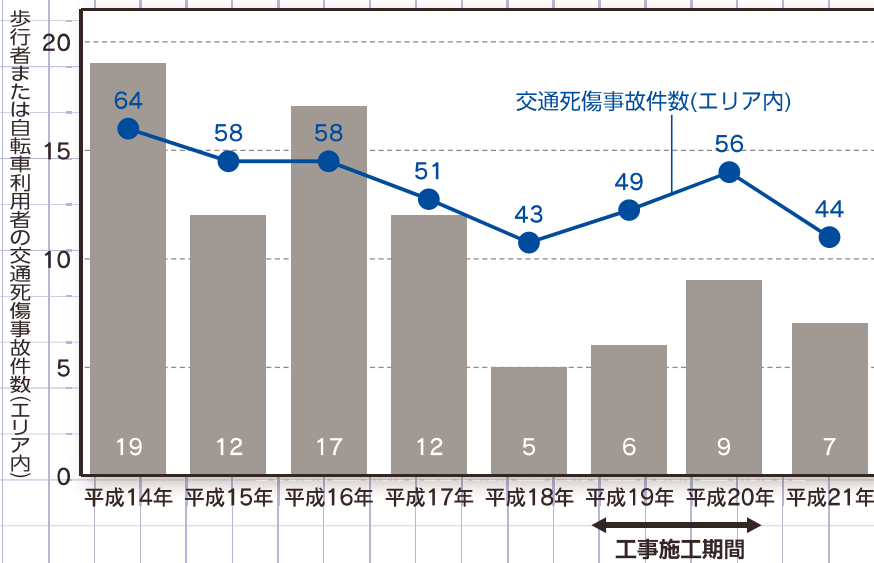
泉小学校6年
丹羽 愛実さん

泉小学校の周りには赤色に塗られた歩道があります。塗られてから、いいなと思ったことが2つありました。

1つ目は、登下校している時に色別されている所まで車が近くに來なくて、安心して学校に登下校できることです。

2つ目は、歩いている人と車の人がお互いに気を付けて通行するようになったことです。車はスピードを落として運転をし、私たちも歩道からはみ出さないように気を付けています。

私たちは、道路が変わって毎日学校に安全に登校できるようになってうれしいです。工夫をしてくださいます。



【検証2－交通死傷事故件数の変化】

工事施工前と比較して、エリア内の交通死傷事故件数は、減少傾向にあります。

検証2

エリア内 事故件数の推移

『安全はお金で買えない。』

自分のまちは自分で守る』



泉地区あんしん歩行エリア
整備促進協議会 委員長

中根 眞人さん

「この事業を始めて、区内の大きい事故は減ったと思います」

この事業の成果を中根さんは自信を持って答えます。中根さんは自動車販売業に携わっているため、交通安全に人一倍責任を感じているそうです。また、仕事柄ヨーロッパを訪問することがあり、今回の事業にもその経験が生きたと言います。

「ヨーロッパは信号が少ないが、自分たちが気を付けて運転をしているので、事故は多くない。今回の事業で行ったカラー舗装も、メイン（幹

線道路）とサブ（生活道路）を色で調整したことが良かったと思う。カラー舗装によりドライバーは生活道路を走っていることを認識し、車のスピードを落とし、飛び出しに對して注意を払います」

この事業を進めるに当たり、これまでであったセンターラインを無くす箇所もあり、地域の方からは「広い道路をなぜ狭くするのか」といった意見もあつたそうです。しかし、『安全な道路を作ることが重要だ』という思いで、地域の方を含めた関係者が取り組んだことで事業を円滑に進める

ことができたと振り返ります。また、道路整備を通じたま

ちづくりへの思いも強く、「これからは大きな道を作り信号を増やすのではなく、生活道路・狭い道路を、生活者優先・歩行者優先とするなど、いかに有効に活用するかが大切だ」と訴えます。さらに、

「まちで暮らす方々が自分の家の前の道を、まちの道路だと認識することが生活者にとって安全な道路につながる。『自分のまちは自分たちが守る。お金がなくても安全な道路を作る』という気持ちが大切」「地域の安全を守るためには、継続した取り組みが必要。まちをきれいにすることは一人ではできないので、そのまちで暮らす方々の取り組みに期待したい」と言います。交通安全の大切さと事故の恐ろしさについて何うと、「事故をしたら取り返しがつかないことがある。安全はお金で買うことはできない」と交通安全に対する思いを込めて話された言葉が印象的でした。